

熊本県立美術館運営ビジョン

熊本県立美術館

熊本県立美術館運営ビジョン

はじめに ービジョン策定にあたって

このビジョンを策定している令和2年（2020年）、世界は新型コロナウイルス禍の真ただ中にあり、私たちは、これまでの営みやコミュニケーションなどとは異なる新しい生活のありようを問われています。

超高齢社会の進展やグローバル化はもちろん、コロナ禍による新しい生活様式への対応など、著しく変化していく今の社会経済情勢の中では、自ら考え判断し、行動できる適応力が必要です。

特に次代を担う子どもたちにとっては、社会の大きな変化を受け身ではなく前向きに受け止め、知的好奇心や創造力、豊かな感性を育み、自分で課題を見つけ解決しようとする「生きる力」を身につけていくことが、さらに大切になってきています。そして美術館は、子どもたちの「生きる力」を醸成する「感性」や「創造性」を高める場のひとつです。

熊本県立美術館は、次代を担う子どもたちの生きる力の育みを支援し、また多様な人たちが、心豊かで潤いのある生活を実現していく一助となるよう取り組んでまいります。

I ビジョンの策定の背景及び必要性

当館は、昭和51年（1976年）に、県民の美術に関する知識及び教養の向上に資する施設として開館しました。平成14年（2002年）には、美術館振興計画「ミュージアムプラン21」を策定し、多様な企画展・巡回展の開催や体系的なコレクションの収集・保管、各分野における調査研究・その研究成果の公開・活用、教育普及などの各種事業や県内美術品等の保存継承活動を実施してきました。

しかし、同プラン策定から長年が経過し、社会情勢は大きく変化するとともに、ニーズの多様化に伴う施設・設備の機能拡充の必要性、熊本市や近隣各県の類似施設との連携、熊本地震や豪雨など自然災害による影響についても対応が求められています。

また近年では、地域の文化観光施設としての活用など、美術館に求められる役割も多様化しています。

さらに、新型コロナウイルスへの対応については、感染防止対策のみに止まらず今後の美術館や展覧会のあり方そのものについても大きな見直しを迫られています。

このように美術館を取り巻く環境が大きく変化する中、当館は、いつの時代も変

わらない美術館本来の役割と社会の変化やニーズに応えられる役割とを常に意識しながら、新たなビジョンを策定し運営のあり方を見直していきます。

II ビジョン実施推進期間

令和2年度（2020年度）～令和5年度（2023年度） 4年間

III 基本理念と基本方針

基本理念

熊本の宝を守り
活用し、誰もが
楽しめる美術館

運営の基本方針

- 1【展覧会・教育普及】
子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
- 2【美術品等の収集・保管・研究】
熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
- 3【地域活性化・交流促進】
地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
- 4【環境・施設整備】
安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館

IV 運営の基本方針

1【展覧会・教育普及】

子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館

子どもの頃から文化芸術に親しんだ人は、大人になってもその喜びや感動を覚えていると言われていています。当館は、子どもの頃から豊かな心を育み、ワクワク・ドキドキするような五感を使った体験活動等を通し、感性を磨き、感動できるような場の提供を目指します。また、美術の多様な見方や楽しみ方を通し、多様性を尊重できる環境づくりを目指すとともに、海外等からの来館者への対応を一層充実させることにより、多様な人々の交流を促進します。

(1) 展覧会活動

○ 総合美術館としての展覧会の充実

来館者や県民へのアンケート等により把握した県民ニーズに基づき、西洋絵画展など集客性のある巡回展や、熊本ゆかりの美術品等をテーマとした当館独自の自主企画展、永青文庫や当館所蔵美術品のコレクション展など、多

様な分野の展覧会をバランスよく開催します。

○ 県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実

展覧会に合わせて、ギャラリートークや美術館の舞台裏を紹介するバックヤードツアー、障がいの有無に関わらず楽しめる鑑賞デー、くまもと教育の日の親子無料デーなど、ニーズに対応したイベントを開催し、参加者が交流しながら、展覧会を楽しめる機会を拡充します。

○ グローバル化への対応

新型コロナウイルスの影響で、一時期落ち込んでいる海外等からの来館者も中期的には回復し、グローバル化の流れは今後更に進むと考えられます。

これに対応し、国内外からの観光客等に、熊本城内にある当館を楽しんでもらえるよう、展覧会の概要や展示品解説等の多言語化、当館ホームページの外国語情報の充実などを推進します。

○ with コロナ・post コロナ社会への対応

来館者が安全・安心に展覧会を楽しめるよう、検温やマスク・手指消毒等の対策を状況に応じて実施するとともに、展覧会のあり方について関係機関と連携して検討・協議し、必要な見直しを行っていきます。

(2) 教育普及活動

① 学校や地域と連携した活動の充実

古今東西の優れた美術品の鑑賞やワークショップなどの体験活動を通して、子ども達が美術の楽しさを体感し、豊かな感性、創造力、知的好奇心を育むことができるよう、学校や地域と連携した活動の充実を図ります。

○ 鑑賞・体験活動

巡回展、ミュージアムバス、出前授業や遠隔授業などを行います。

○ 活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援

教育現場のニーズに合った学習シートや見学ルートマップ等、美術館を活用するツールや活用プログラムなどの提案や情報提供、広報活動を積極的に行い、美術学習への支援と美術館の利用促進を行います。

② 幅広い年齢層が美術に親しむための取組み

幅広い年齢層が美術に親しみ、美術をより身近なものとして楽しめるよう展示の工夫、ニーズに合わせた講演会やセミナー、美術館サポートボランティアとの協働によるイベント、出張講座等のアウトリーチ活動などの充実を図ります。

○ 美術図書や資料の閲覧スペースの整備

県民の美術に関する学習・鑑賞・創作活動を支援するため、美術館サポートボランティアとの協働により、当館の研究紀要をはじめとした美術図書や資料等を自由に閲覧できる環境づくりに努めます。

○ 創作・発表の場としての支援活動

県民の創作活動を支援するための発表の場を提供します。また、障がいの

有無に関わらず、自立した活動を支援するため、アール・ブリュット展覧会や手で見る造形展などを支援します。

○ 美術館友の会・サポートボランティアとの連携

美術館友の会及びサポートボランティアと協働し、展覧会イベントや教育普及活動等の充実を図ります。また、ボランティア等の学びを支援するとともに活動の成果を積極的に発信します。

③ インターネット美術館の推進

展覧会や収蔵品情報などを美術館のホームページやSNS等で配信するなど、インターネットを介して、いつでもどこにいても美術館を楽しめる取組みを推進するとともに、本物を観たいという来館動機へつなげていきます。

また、当館の収蔵品情報について、学校での鑑賞教育の場や個人の美術学習等に広く活用することができるよう収蔵品のデータベース化を推進するとともに、リモートによる鑑賞教育にも取り組んでいきます。

2 【美術品等の収集・保管・研究】

熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館

永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進します。

(1) コレクションの充実

○ 美術品等の計画的な収集・保管・公開

本県ゆかりの優れた美術品等の県外散逸を防ぐとともに、計画的な収集によりコレクションの充実を図ります。また、収蔵品の適切な保存環境の維持に努めるとともに、収蔵品の情報をデータ化し、当館ホームページ等で公開します。

(2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用

○ 調査研究等

細川コレクション(永青文庫所蔵美術品等)や美術館コレクション(本県ゆかりの古今東西の美術品等をはじめとした当館の所蔵美術品等)の調査・研究・修復(永青文庫振興基金の活用等)を進め、美術的・学術的価値を高めるよう努めます。

※ 平成20年度(2008年度)より調査を行っている当館保管の永青文庫所蔵美術品(1,470件)については、令和4年度(2022年度)までにすべての調査を完了するよう進めます。

○ 研究成果の公開・活用

研究の成果については、展覧会企画等への活用及び研究紀要の刊行等を通

じて広く情報発信を図り、熊本の宝として継承していきます。特に、永青文庫所蔵美術品調査の成果については、細川コレクションの展覧会等を通して、公開活用するように努めます。

(3) 県内美術品等の調査研究と文化財保存活動

「熊本県文化財保存活用大綱」(令和2年度(2020年度)策定)で方針として掲げられた「文化財をまもる・活かす・伝える」に基づき、県内美術品等の調査研究を推進するとともに、県内自治体等からの美術品調査依頼や保存等に係る相談に対応します。

また、平時から収蔵品の災害対策を推進するとともに、災害時には熊本被災史料レスキューネットワーク等と連携し、文化財レスキュー活動を行うなど、被災市町村を支援します。

(4) 専門性を支える人材の確保

ビジョンに掲げる事業を推進するために、日本古美術、日本近現代美術、東洋美術、西洋美術、日本史、教育普及などの各専門分野の学芸員等を配置します。

(5) 専門性を高める取組み

学芸員等は自己研鑽や研修等を通して、業務に必要な知識や技術をはじめ資質の向上に努めるとともに、得た知識や技術等については館内外で共有し、美術館活動の質を高めていきます。

3 【地域活性化・交流促進】

地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館

地域との交流や他の文化観光施設との連携により、魅力あるまちづくりを推進します。また、県民の美術館活動への関心と理解を深めるとともに、交流人口の拡大を図るため、展覧会や各種活動に関する積極的な情報発信を行います。

(1) 熊本城周辺文化観光施設としての活動

熊本城内にあるという立地を活かし、近隣文化観光施設と連携したイベントを実施するとともに、地域の行事や熊本市の活動と連携して、熊本城周辺一帯の魅力を高めます。また、ユニークベニュー(※)など施設の新たな活用を推進し、交流人口の拡大を図ります。

※ ユニークベニュー(Unique Venue:特別な場所)

「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間(庭園・公園、商店街、公道等)」などで、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

(2) 団体集客の推進

旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致を行います。特に、細川コレクションや当館所蔵コレクション展への教育旅行の誘致活動を更に進めます。

また、民間事業者との広報協力、近隣施設利用者に対する当館割引券の配布、各団体の福利厚生事業での利用等を推進します。

(3) 美術館活動の情報発信

県民の美術館活動への関心と理解を深め、交流人口の拡大を図るため、展覧会のポスター・チラシや報道機関を通じたパブリシティ、当館発行の広報誌、ホームページ、SNS、その他各種広報媒体への情報提供等を通じて、効果的な事業告知・広報活動に取り組みます。また、県民の宝である収蔵品の魅力を広く発信していきます。

4 【環境・施設整備】

安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館

来館者にとってやすらぎと憩いの場となる美術館をめざします。展覧会の鑑賞のみならず、来館者が美術館という空間を快適に楽しめるよう、ホスピタリティの向上を図ります。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

○ 安全・安心の確保

防災・防犯や危機管理対策を徹底し、安全・安心で快適な環境を整えます。

○ ユニバーサルデザインの推進

子どもや高齢者、障がい者、国内外からの観光客などの誰もが美術館を楽しめるよう多言語対応の充実、施設やサービスのユニバーサルデザインの推進に取り組みます。

○ 誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出

彫刻を展示しているエントランスホール、ミュージアムショップ、美術図書・資料の閲覧コーナー、装飾古墳室などについては、誰もが気軽に立ち寄れる空間とします。

○ 付帯施設

カフェについては、運営者とともに、来館者のニーズに合わせた居心地の良い場所となるよう努めます。

○ ミュージアムショップの充実

当館オリジナルグッズ、本県ならではのグッズ、美術や展覧会に関する書籍等の商品を充実させていきます。

(2) 施設の有効活用

数々の建築賞を受賞し、芸術性の高い建造物であるという当館の特性を活かし、コンサート等ユニークベニユーの取組みを推進します。

(3) 来館者満足度の向上

○ 展覧会やサービスに関する評価に基づく改善

日頃の接客時や来館者アンケートなどにより、お客様満足度や要望・意見等、来館者の「気づき」を把握・分析し、可能なところから速やかに改善するよう努めます。

(4) 経営的視点による運営・管理

○ 収益の向上等

集客力の高い展覧会の開催や貸会場の計画的な貸し出し、ミュージアムショップの利用促進により、収益の向上を図ります。

また、国や財団法人、民間企業等からの補助金や協賛金を得られるよう努めます。

(5) ビジョンの指標と自己評価

○ 美術館の利用者数

観覧者の他、スクールミュージアム・ミュージアムバス・講演会や出張講座等の参加者、無料スペースの利用者なども含めた美術館の利用者数を増やそう努めます。

目標数：令和5年度総入館者数 152,470 人

○ ビジョンに掲げた事業の自己評価

美術館協議会や来館者アンケートによる外部意見等を踏まえ、自己評価を実施し、課題については改善を図っていきます。

<参考資料>

熊本県立美術館の入場者数の推移

(単位:人)

H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
145,771	127,790	101,997	51,012	107,850	122,268	75,078

※ 美術館展覧会、名義共催展、貸会場展覧会、スクールミュージアム、イベント等(講演会、子ども美術館、ミュージアムセミナー等)の入場者数

※ 入館者数(無料スペース利用者も含む)は、令和元年度：130,880 人